

# 時潮の流転

(昭和十四年寮歌)

望月真三郎君 作歌  
竹村伸一君 作曲

## 一

時潮じちようの流転ながれそう淙々そうと  
四季とき乾坤けんこんに巡りめぐ立つ  
去来きよらい常じょうなく人ひと変りかわ  
有情うじよう無為むゐの時鐘かねの音ねに  
孤城こじやうの爽春はるは未だまだ浅しあさ

## 二

遠くとほ流離りうりの春はるにきて  
此この高楼たかどのに春愁うれひつつ  
郭公かつこう鳥とりの鳴くなさへも  
多感たかんの児等こちらの情懷むね熱くあつ  
懷古かいこの涙なみだ溢るあふべし

## 三

真日まひ澄むす北きたの蒼穹そらはるか  
飛燕ひえんひとたび音ねに鳴けなば  
桃李とうりの華影かげは瘦やせゆきて  
あはれ旅寝たびねの若きわか遊子こよ  
帰南きなんの郷愁おもひしきりなり

## 四

夕陽せきやう西にしに落ちお行けゆば  
白樺しらば林はやし朱あけに染みし  
暮秋ぼしゅうの颯かぜは飄々ひょうひょうと  
時艱じかんを憂うれふ国くにの子この  
悲腸ひちやうの声こゑに似にたるかな

## 五

北斗ほくと地平ちへいに揺曳ゆゑぐとき  
天地てんちの四大しだい霜しもと凝りこ  
四寮しりようの高夢ゆめも凍いてつきて  
ほがらほがらの朝あさぼらけ  
帰雁きがんの孤影かげよ月つきに飛ぶと

## 六

明日あす別わかれ行く旅人たびひとの  
春はるの夕ゆうべの宴遊うたげかな  
かへらぬ絢夢ゆめをしのびつつ  
生命いのちの故郷さとと慨嘆なげきしも  
すでに三星みとせ霜くさの草枕まくら